

事例

地域とともに歩む農業高校として

福島県立^{そうま}相馬農業高等学校

福島県立^{そうま}相馬農業高等学校では、学校に代々伝わる「相^{そうのう}農みそ」を活用した食育活動や、東日本大震災後にはハマナスの自生地再生を目指した「ハマナスProject」に取り組んでいます。

「相^{そうのう}農みそ」は、本校創立（明治36（1903）年）後間もなく、授業の一環として製造が始まり、現在も当時の製造方法や味を忠実に守り、伝承されています。平成30（2018）年からは、地域の幼稚園及び小中学校の給食で定期的に使用していただき、あわせて、生徒たちが小学校で味噌の歴史や製造方法についての「出前授業」を実施するとともに、「相^{そうのう}農みそ」を使用した給食と一緒に食べる取組を行いました。そのほか、地域の人に参加できる「高等学校開放講座」等でパンやクッキー作り講座も開催しており、参加者からは「来年も楽しみにしている」

という声も聞かれ、地域に根付いた取組となっています。生徒たちは、子供たちや地域の人々に地域の食文化等を教え、一緒に作って食べる「共食」を通じ、伝える力を身に付け、人々とのつながりの大切さを学んでいます。

また、自生数が激減していたハマナスが東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けたことから取り組み始めた「ハマナスProject」では、ハマナスの種子発芽率を高めるための条件調査や苗の植樹活動を行っています。ハマナスの実をハマナスジャムに、花弁をハマナス琥珀糖に加工し、地域ブランドとして商品化するなどの研究にも取り組んでいます。

さらに、福島県内や東京都で開催される復興イベントに積極的に参加しています。イベントで大勢の来場者と接し、自分たちの取組を紹介することにより、「積極性が出てきた」、「地域に貢献できることをしたいと思うようになった」という生徒が増え、卒業生の多くが地域に残り、農業や関連産業に携わっています。

今後も、地域とともに歩む農業高校として、農業や生産・加工・流通の中の「食」に関わる地域産業を支え、次世代につなげていく人材の育成を行っていきます。



「相^{そうのう}農みそ」出前授業と共食の様子

第3章

地域における食育の推進